



鶏鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『だれでも、十分に修業を積みば』

『その師のようになれる』

聖書(ルカ福音書 6章 40節)

牧師 河合裕志

修業というと仏道修業といったことがピンと来る。戒律を守って仏の道の実践に励む。永平寺等は修業が厳しいと。朝早くに起きて座禅を組んだり…。あるいは武者修業と言ったりする。宮本武蔵等、一流の武芸者になるには相当の修業を積むことに。

あるいは学芸の方面でも修業が求められる。学問や芸術の分野において道を究めるとなると東西を問わず優れた先生について指導を仰ぐことに。

こうして『十分に修業を積みば、その師のようになれる』。先生の域に達する。そして今度は生徒、弟子をとってこれを教えることが出来る。このようにして今日に至るまで各分野の道が守られて来たのだろう。どんな世界においても精進、努力を重ねることは大切な事。

ところで今のイエスの言葉、「その師のようになれる」を「イエスのようになれる」と受取ってはいけない？ そんなダイソレタ、と思う？ そうとっていいんじゃない？

単に一般論を言ったのではないんでしょ。でもそれはどういうこと？ イエスのようになるって。

イエスは神の子、だからこの点は逆立ちしても真似出来ない。

イエスの十字架の死、これも全ての人の罪の犠牲だからこれも無理。これ以外ならイエスのようになれる道があるかも。

その一つをあげればそれはイエスの愛というものでは？ 分け隔てしない愛、敵をも愛する愛、何度でも赦す愛、困っている人を見たら手を伸べる愛…。

一寸待て。そんな事出来ない。不可能。よしてくれ。そうだよ、それは無理難題。ただそこにこそ修業の余地があるんじゃない？ 十分な修業を積むということ。それは何をやる事？ 祈る事。祈りこそ私達における修業では？

「朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた」(マルコ 1・35)。ここにイエスのパワーの泉があった。私達もせいぜいこれを真似ること。1対1で天の父(神)とイエスと交わる祈りの時を持つこと。毎日1回は。出来れば聖書も読んで。これは私達の力の泉。人を愛する力が養われる。そして一歩でも師であるイエスに似た者とされて行く。この祈りの修業を日々積んで行けたら。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時